

まちづくり 提言書 (案)

令和6年2月14日

令和5年度水戸市市政モニター

目 次

まちづくり提言書について	2
【第 1 部】	
私達が理想とするまちの姿	3
【第 2 部】	
理想のまちを実現するための課題と取組	17
(資料)	
市政モニター活動内容	39
市政モニター名簿	41

まちづくり提言書について

私たち市政モニターは、「水戸市の移住・定住促進のまちづくり」をテーマと定め、皆から選ばれるまちについてこの1年間研究し、提言書としてまとめました。

この提言書は、初めにこれからも暮らしたいと思えるような、「私達が理想とするまちの姿」を描き、次に、「理想を実現するための課題と取組」を挙げています。

理想とするまちの姿については、全国共通で大事な視点からの「豊かさと安らぎのあるまち」、水戸市独自の視点からの「水戸ならではのまち」、水戸市を越える広域的な視点からの「日本で輝く水戸」という3つの小テーマごとにまとめています。

私達が理想とするまちの姿は、次のとおりです。

（仮）豊かさと安らぎのあるまち

- 【提言1】市民の地域への関わりが積極的なまち・・・・・・・・・・ 4, 17
- 【提言2】こども達の健康促進・・・・・・・・・・ 5, 19
- 【提言3】障害児・障害者も安心して生活できる水戸市・・・・・・・・ 6, 20
- 【提言4】「for you」で支え合う、温かいまち Mito・・・・・・・・ 7, 21
- 【提言5】児童生徒と教育関係者が、生き生きと学ぶことができる水戸市
（水戸市に住む子どもの多様な学びの機会と、それを支える大人の拡充）・・・・ 8, 23
- 【提言6】子育て世代に寄りそい一緒にこどもを育てていくまち・・・・ 9, 25
- 【提言7】いつまでもいきいき暮らせるまち・・・・・・・・・・ 10, 27
- 【提言8】世代を問わず、住みやすいと感じるまちづくり・・・・ 11, 28

（仮）水戸ならではのまち

- 【提言9】水戸駅周辺で生活が完結！
共働き子育て世代の住みやすいコンパクトシティ水戸・・・・ 12, 29
- 【提言10】地域における円滑な移動手段・・・・・・・・・・ 14, 31

（仮）日本で輝く水戸

- 【提言11】「誰もが平等・公平に安心して、子供を育てられるまちづくり」・・・・ 15, 32
- 【提言12】水戸の魅力、発信力をあげる・・・・・・・・・・ 16, 36

【第 1 部】

私達が理想とするまちの姿

(仮) 豊かさと安らぎのあるまち

【提言 1】市民の地域への関わりが積極的なまち

11.29 時点

・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、市民同士が助け合うための仕組みがインターネット上にあります。

これは「(仮称) みとちゃん困りごと」という名前で、バイトの求人みたいに困りごとや助けてほしいことをあげ、それを助ける人達を繋げられるシステムです。システム上では、幼稚園や各地域ごとなど自分が所属しているカテゴリなどによってグループ分けされているため、身近な人同士での交流が行えるようになっています。

「みとちゃん困りごと」は、支援を求める人だけでなく、支援をする人も利用者として登録するものであり、また、利用者間で情報共有がされることで困りごとが可視化され支援が増える仕組みとなっています。

この「みとちゃん困りごと」は、信頼性や安全性を保つために、行政が有料サービスとして運営・管理しています。このことから、市民が今、どのような困り事を抱えているかを行政が把握し、支援策の立案につながる場としての機能も持っています。

・市民の活動について

老若男女を問わず、人々は生活をしていく上で様々な困りごとを抱えて暮らしています。

例えば、子育て中のお父さんやお母さんは、家の掃除をしてほしい、一人時間がほしい、送迎を頼みたいといった困りごとを抱えています。また、高齢者は家の掃除、片付け、病院の付き添い、買い物支援してほしいと考えています。

上記の「みとちゃん困りごと」は周りにヘルプを伝えやすいものであるため、水戸市民は誰かの役に立とうとする気持ちが強いことから、「みとちゃん困りごと」を通じて、すぐに困りごとが解決することができます。なお、助け合いの気持ちをもっているため、ある時は助けてもらう側であっても、またある時は助ける側になれるように「みとちゃん困りごと」を利用しています。

このみとちゃん困りごとは、多少金銭を負担することとなっているため、助ける側は責任を持っ

て支援をしています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

以上のまちの水戸市民は、一人一人が地域を支え合う仲間として、地域から必要とされる人材になることができます。

そのため、皆が地域に溶け込むことができ、地域に対する意識が高くなっていることから、水戸市への移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組を P 18 に記載します。



・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、天候に左右されず、いつでも子どもが遊びやすい施設が充実しています。

水戸市は日本で比較的良く見られる気候で、夏の暑さや冬の寒さ、梅雨の時期の雨など、子どもが外で遊びにくい時期もあります。こうした気候に対応して、いつでも遊べるように冷暖房が設置された屋内施設が整備されています。

この屋内施設は体育館を始めとした体育施設のように広い空間が確保されており、子どもが体を動かして遊べるようになっています。



・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、上記の施設を活用して鬼ごっこ、ドッジボール、縄跳びなどの遊びをこどもと一緒に家族で行っています。

また、知り合いの子育て世帯とも一緒に施設を利用したりもしています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは子育て世帯同士での交流が活発に行われており、家族にとって住みやすくなっています。

そのため、子育て世代からの人気を集め、選ばれるまちとなっていることから、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP19に記載します。

・まちの環境について

私が理想とする水戸市の環境は、障害のある人たちが日々の生活を送るために必要とする施設等が充実しており、それぞれの障害の実情に応じたサービスが提供されています。

まず、障害福祉施設については、年齢や障害の種別に関わらず、障害のある全ての人たちへ対応できるように、児童施設（放課後デイサービス等も含む）、成人施設、診療所などが一体的に運営され、総合的な対応が行われています。

また、まちに出てみれば、障害施設に限らず、あらゆる施設で車いす駐車場や広いエレベーターがあるなど、障害者にも優しいバリアフリーが充実しています。

・市民の活動について

上記のまちの中で、水戸市民は互いに助け合う精神を持って生活しています。また、障害のある人となない人の交流も活発に行われているため、お互いを良く理解し、お互いの立場を尊重し合っています。

例えば障害福祉施設においては、子どもを持つ親同士の交流による情報交換が図られているほか、親自身の希望で療育活動へも参加しています。

加えて、福祉施設を基盤として、PT、OT、ST、医師、保育士、看護師などの福祉に係る人たちが一体的に連携して支援しており、特に、医療分野については、時間帯や対象年齢を問わず支援しています。

このまちのバリアフリーは、ハード・ソフト両面から展開されているため、障害者の実情を踏まえた支援など、施設設計等に限らない広い視点が取り入れられています。

例えば、花火大会の時には、大きな音や人ごみが苦手であったり、じっと待つことができない人たちのために、花火の見える屋内施設（障害者が利用しやすいもの）が優先的に開放されています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このような水戸市では、障害のあるなしに関わらず互いに支え合っているため、障害のある人たちだけでなく、それを支える人たちも皆が日々の暮らしに安心することができ、長期的視点から明日への希望を持って生活できています。

そのため、他市町村からも多くの人をひきつけ、移住・定住が促進されています。

さらに、水戸市が変われば他の市町村も変わるような、茨城県をリードするまちとなっています。

このまちを実現するための課題と取組を P 20 に記載します。



・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、誰もが安心して過ごせる（仮称）〇〇広場があります。

〇〇広場は、木を使用した建物のため自然を感じられる造りとなっており、気軽に勉強や文化・芸術活動などを楽しめる機能を持った小規模な屋内施設です。

この〇〇広場は地域の拠点となるように市内の中学校区に一つずつあり、参加しやすい時間帯（毎日朝8時から20時まで）無料で解放されています。

・市民の活動について

〇〇広場は、地域の人々が主体的に運営し、地域住民同士の交流が行われています。この場所は、社会人・学生・子ども・高齢者・障害のある方など、様々な人たちが地域の第3の拠点として活用しているため、多種多様な交流が生まれています。また、地域の拠点であることから、顔見知りで自然に接することのできる人たちが集まるなど、地域住民が主体的に参加する居場所となっています。

水戸市民はこの〇〇広場での交流を楽しむとともに、お互いが積極的に助け合う社会性を高める場としても活用しています。

ここでは、一人でも自由に利用できる日もあれば、特定の曜日などにイベントが開催されたりもしています。

例えば、ピアノ演奏付きの絵本の読み聞かせ、歌やダンス、親子でのミサンガや打楽器作成、料理などが行われていますが、これらのイベントは参加者がお互いに協同しながら取り組むことで、助け合いの心が育まれるように工夫されています。

こうしたイベントは地域住民を中心に誰でも参加できるだけでなく、高齢者など時間に余裕のある人は運営する側としても関わりやすいようになっています。

また、歌やダンスなどのイベントの成果を市民会館などで発表したりしているため、近隣住民だ

けでなく市全域での交流も図られています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは、それぞれの人がお互いに共感し認め合っているため、心が休まり安心出来るまちです。

また、多様な人々との交流や、多彩な文化・芸術活動に触れることができるため、日々の暮らしの中で達成感や感動を味わえたり、心動く体験ができるまちともなっています。

特に子どもたちは〇〇広場での交流を通して、多様な価値観や新たな自分を発見しており、誰かを助けるために自分で考えて行動できるとともに、自分を適切に表現できる自立した大人へと成長しています。

このように、以上の水戸市には誰でも安心して参加できる空間・居場所があります。そのため、市民同士で交流し、支え合い、温かいまちには人が集まることから、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP21に記載します。



・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、まちぐるみで子どもたちへの教育を行っていることから、子どもたちはまち全体で学んでいける環境となっています。

このまちでは、通常の学校教育に加えて、歴史・芸術・知識などに関する、子どもの成長につながる施設(歴史館、水戸芸術館、近代美術館、教育学部・学科を有する大学、地域スポーツクラブなど)も子どもたちの教育を行う機関として活用されており、各学校と十分な連携がとられています。

また、不登校となった児童・生徒への対応として、適応指導教室(うめの香ひろば)や民営フリースクールのように、学校以外でも学校教育を学べる場も設けられています。

・市民の活動について

このまちでは、小学校から中学校の全学年において、先生が一人一人の実情に応じたきめ細かな対応を行っているとともに、児童・生徒が複数の先生と交流して多様な価値観に触れることができる機会が充実しています。

さらに、通常の授業の他にも、大学教授による質の高い専門的な授業や、精神的な距離の近い大学生による共感しやすい授業、地域の人による学力向上サポーターなど、様々な人々が小中学校の教育に関わっています。こうして、様々な人々が小中学校の教育に関わることを通じて、教員も地域の専門家から知識を得て学びを深めています。

部活動については、基礎体力の向上など、基礎的な能力を楽しく身に付けることを目的に実施されています。そのため、より高い水準の環境を求める生徒たちは、外部のスポーツクラブなどを活用し、練習しています。

この他、学校は上記のような様々な教育人材を活用して、不登校となった人にも学校教育と同様の学びを得られるように、適応指導教室、フリースクール、自宅など、様々な場所で教育を提供し

ています。

また教育体制については、過度な負担はかえって教育の質を下げってしまう、という考えのもと教師たちが負担の少ない状態で働くことができるように、教師たちはお互いに協力して助け合うとともに、上記のように専門知識を持った地域人材も必要に応じて活用しています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このようなまちで育った子どもたちは、自分で情報や知識を集め、自分で物事を考えられる、真に自立した大人に成長できます。

また、幅広い教育人材たちが生き生きと教えることができているため、質の高い教育が持続的に提供されています。

そのため、子どもの教育に関心の高い親たちから選ばれるまちとなっていることから、子育て世代の移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP23に記載します。



私が理想とする水戸市を描くにあたっては、子育て世帯を、産前期、産後期（出産～出産後半年）、乳幼児期（出産後半年～3才）、就園児期（3才～就学）に分け、産前期～乳幼児期にかけて記載します。

・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、子育て世帯向けの施設がそれぞれの子供の段階に応じて適切に整備されています。

産前期向けの施設としては、子育て情報を集めるための子育て支援センターや市役所があります。

産後期向けの施設としては、生活支援のための病院や産後ケアセンター、産後ヘルパーがあります。なお、産後ケアセンターや産後ヘルパーは様々な運営主体によって運営されています。

乳児期向けの施設としては、子どもへの対応としての保育園や一時保育があり、まちなかには、子どもが遊ぶための屋内施設や子どもと一緒に楽しめる飲食店などがあります。

・市民の活動について

このまちの水戸市民は共働きでも安心して子育てできるように、子どもが育っていくときの不安や負担に対して上記の施設を活用し、以下のように過ごしています。

産前期は子育て支援センターや市役所を活用して子育てに関する情報を収集しています。また、これらの施設では子育て相談会などが開催されており、積極的に情報発信が行われています。

産後期は出産から半年が過ぎるまで、保育園に子どもを預けたり、産後ケアセンターや産後ヘルパーの家事育児代行サービスを利用することで、出産で弱った体を回復させています。

乳幼児期は保育園や一時保育を活用して計画的に家事などを行う時間を確保しているとともに、他の子育て世帯と交流し、日々の子育てに関する悩みを共有し、有益な情報を交換しています。

その他、親子で遊びに出かけ、個人経営のような飲食店で食事をしたり、ハレニコのように遊具が完備された屋内施設で遊んでいます。このように子どもと楽しく過ごした体験も他の子育て世帯と共有しています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは、移住者のように身近に頼れる人がいない方も含め、子育て世代が助けてほしい時に必要な支援が選べて、安心して過ごせるまちです。

このまちには、子育てにおいて次のような安心があります。

産前期においては、子育てについて知りたい情報を得ることができる安心があります。

産後期においては、出産により体調がすぐれない母親が、他の人を頼れることや体調を回復できる安心があります。

乳幼児期においては、子どもが泣き止まないことや予期できない危険な行動をとることなど、子どもが思う通りにならない状況でも様々なサポートやアドバイス等を受けることができる安心があります。子どもを家の外で遊ばせる時には、他の子供との体格差を気にせずいつでも安全に遊ばせることができる安心があります。また、まちなかにある個人経営の飲食店へ子どもと一緒にいくことや他の子育て世帯との交流などを通して、地域に溶け込むことができる安心があります。

以上のように、一番大変な時期の子育て世帯をまち全体で家族のように協力し助けている事で、水戸市であれば、心身ともに過度な負担が無く安心して子育てができると皆から思われるようになり、移住・定住が促進されていきます。

このまちを実現するための課題と取組をP 25に記載します。



【提言7】いつまでもいきいき暮らせるまち

・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、高齢になっても自分の家で暮らし続けられるような住環境が市街地を中心につくられています。

具体的には、日々の暮らしで生じる体の不調や心配事に対して、どこの病院に行けばいいのかを相談できる窓口が生活圏内に整備されています。

また、高齢者が他者と交流しやすいように、飲食や多様な活動ができるような交流拠点が中学校単位で整備されています。他にも、市民同士で協働して農作業を行える農園や屋内で趣味を行える施設が小規模でまんべんなくあり、気軽に訪れることができます。この交流拠点は学校や市民センターなどが兼ねていることもあり、車やバスでのアクセス性に優れた施設になっています。

更に、老化によりやむを得ず施設へ入所する必要が生じた方のために、身体機能の低下の度合いに応じた施設が市内にまんべんなく整備されています。

・市民の活動について

このまちでは近隣住民との良好な関係に基づく地域住民主体のコミュニティが形成されています。そのため、地域内で誰も孤立しないような状況となっており、何かあった時には近くの人がすぐに駆け付けています。

このコミュニティでは上記の交流拠点を活動の場として、趣味としての手芸や手作業の他、農業などの活動によって交流が行われています。この交流活動は月に2回程度開催されており、その時々に応じたテーマのもと交流が行われています。

また、交流拠点などでは世代間の交流も行われており、高齢者が子育て世帯の子どもを預かることや、若者や高齢者の間でインターネットに関する知識を教え合ったりしています。

こうしたコミュニティ活動の他、高齢者は身体機能の低下を予防するための運動を年齢に応じて行っています。例えば、前期高齢者ではヨガ、

後期高齢者ではコグニサイズや嚙下体操、体力測定などが行われています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

以上のようなまちで、水戸市民は他者から孤立することなく一生安全にその人らしくいきいきとした生活をし続けることができます。

これにより、地域に一体感があるとともに、一生涯住みたいと思えるまちとなっているため、特に長期的な視点からライフプランを立てる人にも選ばれるまちとなっていることから、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組を P 27 に記載します。



・ まちの環境について

理想とする水戸市は、主に子育て世帯、また高齢者が交流を通して住みやすいと感じることができるまちです。日常生活ではほとんど交わることのない世代が関わりを持つことを通じて不安軽減につながり、安心して過ごせることが理想です。子育て世帯は子どもを預けたり、相談したりできる環境が身近にあり、家族以外からの支援を気軽に安心して受けることができます。高齢者は子どもや親世代とかかわることで孤独を感じず、若い世代の人とも交流を持つ機会がたくさんあります。

・ 市民の活動について

誰でも気軽に参加でき、地域住民が安心して暮らせるようになるためのコミュニティが存在します。特に子育て世代、高齢者が地域で孤立しないようにするための取り組みです。

交流や不安、負担の軽減を目的としています。

・ まちの魅力と移住・定住の促進について

特に孤立しがちな子育て中の移住者が地域住民と関わりを持ち、助け合うことができる誰も孤立することのないような安心できるまちです。

市民同士の交流があるという都心ではなかなか経験できないような助け合えるまちにすることで住みやすいまちができあがります。

このまちを実現するための課題と取組を P28 に記載します。



【提言 9】水戸駅周辺で生活が完結！

共働き子育て世代の住みやすいコンパクトシティ水戸

・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、衣食住と教育施設が完結するエリアが水戸駅を中心に広がっています。水戸駅から歩いて5～10分圏内に住宅があり、複合商業施設があり、教育施設があり、子どもの遊び場があります。そのため、このまちで車を利用するのは、旅行や遠出などのレジャーのときのみで良いようになっています。

複合商業施設は子育て世帯をターゲットとしているため、施設全体が子どもが大声で騒いでも気にならないにぎやかな空間となっており、ベビーカーなどを押して歩きやすい通路の広さが確保されています。また、子どもの定期健診や親子教室、子育て相談に活用できるスペースもあります。

この施設には、食料品を売るスーパー、日用品を売るドラッグストアやホームセンター、衣料品を売るアパレルショップ、子ども用品店、家族で利用しやすいフードコートなどがあります。また、子ども向けの室内遊戯施設もあり、雨の日でも子どもは元気いっぱい走り回って遊べます。

施設内には保育園も併設されており、この保育園では平日・休日問わず一時保育にも対応しています。時間制あるいは半日、1日プランがあり、預ける理由は問いません。また、追加料金で食事を依頼することも可能です。この保育園を利用した場合には、前述の遊戯施設も利用できるようになっています。

教育施設は、水戸駅付近に暮らせば小学校から高校まで徒歩で通えるように学校が配置されています。加えて、学習塾や習い事、豊富な蔵書の県立図書館など、子どもの教育に資するその他の施設も駅周辺にそろっています。

県立図書館には、おすすめの図書コーナーや自分で勉強するためのスペースが用意されています。芸術館には、自分で絵を描いたり、色を塗ったり、芸術に触れて学ぶことのできる無料常設スペースが用意されています。

なお、大学については水戸駅からバスで通える程度の範囲にあります。

子どもの遊び場については、前述の商業施設内の遊戯施設の他、少し足をのびした先に千波公園があります。これらのエリアは、子どもが一人でも安心して歩けるほど、道が街灯で明るく照らされています。

・市民の活動について

水戸駅周辺に商業・文化的施設が集まり、子育てサービスも充実しているため、市民は平日・休日を問わず以下のように豊かな生活を送ることができます。

複合商業施設では、平日に限らず土日も親子教室や子育て相談を実施しているため、平日は仕事で忙しい会社員のお父さん、お母さんも参加しています。健診帰りや保育園のお迎え帰りの親子には、「今日は疲れているからフードコートで晩御飯にしよう」「今日はスーパーで何かおいしいお惣菜を買って帰ろうか」といった会話が見られます。

また、子育て世代は施設内の保育園に預けることで、ショッピングや映画鑑賞などリフレッシュすることができています。

教育施設は、子どもたちだけでも徒歩や自転車、バスで各施設へ移動できるため、親の送迎を必要としません。また、小学生以上の子どもたちだけで施設を活用できる工夫がされています。

また、社会的に～～～という理念があるため、～～～な子どもと一緒に楽しむことができます。

例えば、公共施設では、図書館利用や芸術鑑賞のあいだ子どもを見ていてくれます。平日・土日を問わず利用できるため、親も自分の読書や芸術鑑賞を通してリフレッシュしたり学びを得たりできます。

子どもの遊び場は、千波公園があるため、天気の良い日はそこで元気いっぱい遊んでいます。雨の日は前述の商業施設内の遊戯施設で遊ぶことができるので、遊ぶ場所に困りません。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちの水戸駅周辺は、車が無くても生活を完結できる利便性があるため、それまで車を持たず生活してきた移住者が、新規に運転免許を取得したり車を購入したりしなくとも、スムーズに新生活を始められます。

都市部からの移住を検討する方は、それまで車を運転したことがない、運転免許すら持っていないという方が多いです。そのような方々にとって、車が無くても生活できるということは車社会の北関東にあって大きなメリットとなります。

「東京ほど人が多くなくて、かつ車が無くても生活に不便が無い(生活を楽しめる)」ということがポイントです。

また、子どもが一人でも安心して歩ける街並みや、保育園と連携した遊戯施設があるなど、他市町村の共働きの子育て世代から「水戸市に住んだら、私の抱えているたくさんの苦しさはすべて無くなる」と思われるまちのため、共働き子育て世代の移住が促進され、将来的な税収アップにつながっています。

このまちを実現するための課題と取組を P 29 に記載します。



・まちの環境について

私が理想とする水戸市の中心市街地は、歴史を感じられるとともに、生活の利便性が高い場所となっています。

このまちには、弘道館や水戸城跡地を始めとした歴史的資源がまちなかにあるとともに、スーパーなどの日用品を購入できる施設も充実しています。

また、公共交通機関の交通網も充実しているため、中心市街地だけでなく、市内での移動がしやすくなっています。

また、高齢者から強く人気を集めることで、その高齢者から若い世代世代に水戸の魅力が伝わっていき、世代間でその魅力が共有されています。

そのため、水戸市は他のまちとは違う特別なまちと思われることから、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組を P 31 に記載します。

・市民の活動について

このまちの住民は、水戸ならではの歴史的資源をまちの宝と捉え、老若男女を問わず、生涯にわたって多様な形で水戸の歴史を学んでいます。

例えば、講演会のように水戸の歴史自体を取扱うものや、水戸黄門漫遊マラソンのように開催場所を歴史的拠点とする等、イベントをきっかけとして水戸の歴史に興味を持ってもらうもの等があります。

その他にも、家族や友人と水戸市内を散策している時など、日常の中でも水戸の歴史を教え合うことが行われています。

このような活動ができる中心市街地は生活の拠点ともなっているため、水戸市民はこの場所で日々の買い物や普段の宴会も行っており、こうした生活を過ごす上での移動のために公共交通機関を活用しています。

また、以上のように市民が歴史的資源を大切に扱うことを通してまちの活力が生まれていることから、他市町村からも移住を検討している人などが歴史的資源を見学しに来ており、特に高齢者から人気を集めています。



・まちの魅力と移住・定住の促進について

以上のようなまちで暮らす水戸市民は、水戸ならではの魅力を身近に感じることができるため、地域に対する愛着を強く持つことができます。

【提言 11】「誰もが平等・公平に安心して、子供を育てられるまちづくり」

・ まちの環境について

私が理想とする水戸市には、子供が健全に成長しやすいように、学校や医療機関などの基礎的なインフラの他、社会性を育むための地域資源としての文化施設や千波湖などがあります。

また、子育て世代の働き口及び地域経済の担い手として、日立製作所、原子力関係機関、ＪＲ、常陽銀行などの大手企業が水戸市を含む県央地域にあります。

こうした環境を土台として、更にまちを発展させていくために行政機関（市役所など）があります。

・ 市民の活動について

このまちの子育て世帯は、子育てにあたって学校などの教育施設だけでなく、文化施設や千波湖などの地域資源も活用し、子供の成長につなげています。

千波湖では、地元の食材を活用したイベントが行われていたり、子供たちを楽しませる大道芸人などがいるため、人々の交流で賑わっています。

水戸市民は、水戸市が茨城県をリードするまちであることを目標として定め、行政機関を活用しています。この目標を受け、行政機関である市役所は他の市町村に先駆ける政策を戦略的に実行するとともに、適宜近隣市町村とも協力することで、水戸市や県央地域を持続的に発展させています。更に、こうした発展によって増加した税収を活用し、また新たな戦略を次々に打ち出すことで、発展を加速させています。

例えば現時点であれば、高所得者から選ばれるためにも、子育て世帯が住みやすいまちづくりとしての少子化対策が戦略上重要であるため、市が「全ての」子育て世代に全面的に寄り添う姿勢を打ち出し、高所得者も子育てしやすいまちをつくることで、多くの子育て世代の移住を促進させています。

・ まちの魅力と移住・定住の促進について

以上のような水戸市は、市民の希望出生率が叶

い自然増が高い水準で実現されているとともに、子育て世代を中心に多くの移住者が集まることから社会増も高い水準で実現しています。そのため、子供が増加することで、自治体や街としての活力が生まれています。

また、広域的な視点から、戦略的かつ先進的な政策が次々と打ち出され、全国的に有名なまちとなっているため、転勤等により県央地域が勤務先となった人を中心に生活拠点として選ばれるまちとなっています。

これらのことから、人口増と経済成長の両輪を柱として、まち全体が持続的に発展しているため、水戸市の移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組を P 32 に記載します。



・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、SNS (Youtube, インスタグラム, TikTok, X) などの他、市内のイベントや魅力などを市民間で広く共有できる情報発信ツールがあります。

このツールは、市民から受け付けた情報を、他の市民の方々にも共有できる様な機能があり、スマートフォン一つで気軽に情報を集め、受け身でもどんどん情報を手に入れることができます。

このまちの魅力は、イベント、食、観光などに関するものがあります。

す人も水戸市の魅力を簡単に手に入れることができます。

これらのことから、水戸市は非常に生活のしやすいまちになっているため、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組を P 36 に記載します。

・市民の活動について

水戸市内の魅力の情報を発信する主体は、主にインフルエンサー、市民、行政です。

インフルエンサーは、主にインターネットを活用して、最新の魅力的な情報を分かりやすい形で市民に伝えています。また、ヒカキンのみそきんや、ヒカルのジョイフルとのコラボなどのように、その知名度を活用して民間企業とコラボした商品を生み出すなど、経済を活性化させてもいます。

市民及び行政は、SNS や前述のツールを活用して、市内にある様々な魅力を発信しています。特に、イベントにおける主催者の思いやイベントにまつわる物語を感じることができるような情報を発信することで、さらにその魅力を高めています。

また、水戸市民は普段から SNS などを使用しており、そこから得た様々な情報を、日々の会話のきっかけにするとともに、休日の過ごし方を決めています。特に、行政から発信される市内の情報は市民の興味をひく面白いものが多いため、その情報の影響力は大きいものとなっています。



・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちで暮らせば、スマートフォン一つで市内にある多種多様な魅力やほしい情報を次々に仕入れることができるため、日々の暮らしを楽しく過ごすことができます。また、他市町村で暮ら

【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組

(仮) 豊かさと安らぎのあるまち

【提言 1】市民の地域への関わりが積極的なまち

11.29 時点

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「人の役に立っていると実感できるまち」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

困っている人と助ける人がつながるために、周りにヘルプを伝える仕組みをつくる

【取組】

メイアイ（May ii）の活用（手軽にできる、誰でも参加しやすい）

（参考）

○メイアイ：お互い気軽に助けたり，助けてもらったりできるベンリなアプリ（<https://mayii.jp/>）

○子育てシェア：知り合い同士の送迎・託児アプリ（<http://asmama.jp/kosodate-share/index.html>）

○マイコミュ：自治体や企業がリードパートナーとなって、暮らしや子育てを住人同士で共助するコミュニティ創生プロジェクトの実施エリアのみでご利用いただける共助アプリ（<https://asmama.jp/my-commu/>）

○境町子育てシェアタウン事業：子育て世帯や、子育てに協力してくれる方々（子育ての担い手）が、緩やかにつながることができる（交流）、また、必要に応じて頼りあうことができる（互助）、子育て環境の構築を目指すもの（<https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/page/page003303.html>）

【課題】

困っている人と助ける人がつながるために、誰かの役に立とうとする意識づくりを行う

【取組】

市民への SNS や広報誌での周知

【取組】

幼稚園や保育所でのチラシ配布

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「雨の日、夏の日、土日のみ無料もしくは低料金で開放（すべての施設が常時開放でなくてもこの日はこの場所のみ利用可）」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

既存の建物の有効活用→アダストリア、堀原運動公園、ミオス、ケーズデンキスタジアム、市民会館、市内にある体育館、内原ヘルスケアパーク（大人&子どもで動ける場所）



【取組】

気軽に使える施設にできるか、安全面、夏は冷房があるか

○備考

未就学前の遊べる場所は充実しているが、小学生が安全で気軽に遊べる室内施設がない
室内施設を利用することで市民の施設の認知も高まるのではないかと

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「皆で助け合い、誰もが安心して暮らせること」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

障害を持つ人への多面的な支援環境をつくるため、総合的な福祉施設をつくる

保護者間の協力関係をつくるため、保護者間の交流を促進する

【取組】

姫路市のルネス花北を参考に、以下の機能を備えた総合的な福祉施設をつくるにあたっての補助金を交付する（市営でも可）。

- ・ P T, O T, S T, 医師, 保育士, 看護師などの福祉に係る人たちが一体的に連携していること
- ・ 未就学児や 18 歳以上でも受け入れ可能であること
- ・ 障害の程度に応じて自立を促すこと
- ・ 教育（学習）環境があること
- ・ 放課後デイサービスを実施すること
- ・ 住居としても利用可能であること
- ・ 定期的に保護者たちを集め、保護者たちと子どもが共に一日を過ごす取組が行われていること

○備考 ○姫路市の例

・療育手帳 年 3 万, 身障手帳 年 3 万, 介護手当 月 1 万（親に）, 動物園で障害児向け無料開放デー有り, ・ルネス花北（先進施設）有り

（愛正会が機能していない, 休日夜間救急センターが夜中に閉まっている, 子どもが体調崩すのは夜中に多い）



ルネス花北

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「誰でも安心して参加できる空間・居場所があるまち」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 地域住民によって主体的に運営されるようにするため、管理・運営者への支援を行う	【取組】 運営者へ補助金を交付する
【課題】 地域住民が主体的に交流できるようにするため、近隣住民間の交流を促進する	【取組】 回覧板の回付を推奨する
【課題】 地域住民が主体的に交流できるようにするため、〇〇広場を周知する	【取組】 まちなかの掲示板にチラシを掲示する 【取組】 市 SNS で周知する



(参考) 日本財団 2024 年度 「子ども第三の居場所」
<https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child-third-place>

○備考

【項目エから】

〇〇広場を管理する人（毎日の鍵の開け閉めなど）

運営にあたっての中心人物がいるか

運営資金の確保

運営場所の確保

【項目オから】

運営補助金の交付

公共施設の場所貸し

**【提言5】児童生徒と教育関係者が、生き生きと学ぶことができる水戸市
(水戸市に住む子どもの多様な学びの機会と、それを支える大人の拡充)**

10.11 時点

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「**教員が生き生きと働けること**」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

- ・勤務時間にあった仕事量にするため、部活の朝練の負担を無くす（減らす）

【課題】

- ・勤務時間にあった仕事量にするため、不登校生徒への対応の負担を無くす（減らす）

【取組】

（仮称）基礎体力向上事業を実施する。内容は以下のとおり。

- ・部活の朝練の代わりに実施する。
- ・教師の負担が少ないようにする。
- ・生徒全員が集まって行う。
- ・体操など、体を動かすものにする。
- ・生徒が楽しめるものにする。

以下のように、スクールカウンセラーが教師をサポートする幅を増やす。

- ・生徒が保健室などへ登校した際には必ずスクールカウンセラーが声をかけられるようにする。
- ・その他、心理的対応が求められる相談などの実施。

○備考

【項目ウ】

現代の児童生徒を取り巻く環境や考え方、教員の時間外労働を当たり前としない内容へアップデートされた、他都市にはない過ごしやすい街へ

【項目エ】

- ・少人数学級で過ごすことで児童生徒ひとりひとりに教員の目が行き渡り、安心して過ごせる
- ・大学教授や教育学部在籍学生、定年退職教員、教員免許保有者を活用し、学校現場の教員の負担を軽減する(教員の離職率低下を目指し働きたい水戸市へ)
- ・不登校の生徒と保護者が、学校へ通うことだけに囚われることなく、進学やライフステージを見通した活動ができる場所がある

【項目オ】

- ・小中学校全学級 30 人以下(昨年度の提言書にも同様の訴えあり)

→鳥取県は段階的に実践済。2025 年度には完了する見通し。鳥取県をモデルケースとして、水戸市でも他の市町村にはない魅力として実施可能か

- ・教員の時間外労働を当たり前とする活動の見直し及び廃止

※「規律と協働を高める八策」の見直し

→給食の見守り・休み時間の遊び・テストの丸付けをシルバー人材センターや 教育学部生に協力依頼できないだろうか

- ・学校に来ることだけを目的にしない，デジタルを活用した学びを進めるフリースクールや適応指導教室の取り組みを子どもと保護者へアピール

- ・小学校 1・2 年全学級 30 人以下学級(少人数教育充実プラン推進事業)

- ・大学との連携，大学生ボランティア(中 2・3 希望者対象冬休み数学を教える)

(出典：水戸スタイルの教育リーフレット)

- ・学力向上サポーター(水戸市採用非常勤講師の配置，少人数指導)

- ・「規律と協働を高める八策」

- ・魅力的な施設と人材の活用を進めたい(学校外の人材を，学校内へ)

- ・担任なし制（複数担任制？）

「規律と協働を高める八策」

- 1 朝の会に一番大きな声であいさつする
- 2 授業の初めと終わりには必ず起立して，頭を下げた礼をする
- 3 下足箱の靴のかかとをそろえる
- 4 週に一度の教科会(中学校)・学年会(小学校)で，次週の重点事項を確かめる
- 5 毎月他の学級や他教科の授業を見る
- 6 授業開始・終了の定められた時刻を守る
- 7 家庭学習ノートを毎日点検する
- 8 一人一人に毎月家庭学習計画票を作成させる

水戸市の小中学校で実践しています！

出典：水戸市総合教育研修所 HP

令和元年 5 月 22 日掲載

→1～3は児童生徒がすること。4～8は教員。8に関しては教員でなくて家庭でも可能では。この八策がどのように学校現場で活用・周知されているのか気になりました。5年前に作成されていますが，現代の価値観にアップデートが必要に思います。誰が何のために誰に対して作成されたかが読み取れません。

【提言 6】子育て世代に寄りそい一緒に子どもを育てていくまち

11.19 時点

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「過度な負担が無く、安心して子育てができるまち」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】 産後期の母親の体調不良を防ぐため、体が休める時間を増やす	【取組】 産後ヘルパー助成
【課題】 乳幼児期に親が心身に余裕を持って育児ができる生活を送るため、家事などへの支援を充実する	【取組】 妊娠中の第 1・2 子の預り
【課題】 乳幼児期に親が社会的な生活を送るため、養育の不安を解消する	【取組】 一時保育チケット配布 【取組】 保活についての定期説明会 【取組】 兄弟が同じ園に通える制度

○備考

兄弟で同じ保育園に通える制度については、京都市に事例有。

【項目ウから】

- ・妊娠中・産後のケアを手厚く
- ・子育て中の情報を得る
- ・子育て中に起こる負担軽減

【項目エから】

- ・妊娠中の不安を軽減する取り組み
- ・産後の体調不良への支援
- ・育児中の孤立防止の為に地域との関わり
- ・就労の為に事前の保活に必要な情報の定期説明会
- ・育児中の不便を優遇によって改善

【項目オから】

- ・妊婦向けイベント（わんぱく・はみんぐぱく）
- ・子連れでいける場所・飲食店認証マーク
- ・保活についての定期説明会
- ・兄弟が同じ保育園に入れる制度

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「孤立を感じず、一生涯住みたいと思えるまち」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

近隣住民同士で気軽に交流できるようにするため、ジェネレーションギャップを解消する

【取組】

身体機能の維持を目的とした運動、介護予防、健康増進のための講座、SNSやインターネット利用にとりのこされないサポートなど小規模な集団での開催、医療連携、交流できるCafeの提供、イベントの開催（体力測定など）、高齢者が子どもや若者に教える場をつくる（経験やコミュニケーションの場）

○備考

- ・水戸市は茨城県内でも高齢者人口が最も多く、今後も増加傾向である。それに伴い、環境や対応の変化が必要になると想定される。
- ・水戸市民が健康で自立した生活が送れる身体機能やこころのケア、またインターネット・SNSの利用についての対応や高齢者が独立しないためのコミュニケーションの場の提供などの環境や機会が大切。

【項目ウから】

一生涯住みたいと思える環境やサポートがある

【項目エから】

- ・孤立を防ぐ
- ・コミュニケーション機会をつくる
- ・体力・認知機能の維持
- ・趣味・特技を活かす

【提言 8】世代を問わず、住みやすいと感じるまちづくり

11.20 時点

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「子どもを作りやすい環境を整えること、地域とのつながりを感じることのできるコミュニティができること」ことです。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

- ・妊娠中の不安を軽減する
- ・核家族ワンオペ育児への不安
- ・孤立解消
- ・コミュニティの形成



【取組】

- ・妊婦向けの交流や住んでいる地域でのコミュニティを作る
- ・現役の子育て世帯が交流できる環境や施設を作る
- ・コミュニケーションを気軽にはかることのできる場をつくる
- ・イベント等の開催

（仮）水戸ならではのまち

【提言9】水戸駅周辺で生活が完結！

11.22 時点

共働き子育て世代の住みやすいコンパクトシティ水戸

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「移住してきた共働き子育て世帯でも暮らしやすい水戸駅周辺」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

生活に必要なものは全てそろそろ施設をつくるため、住民の合意形成を図る

・備考

水戸駅内のスーパーは足りないものを買う程度で、週末のまとめ買いをするには品数が足りない。子ども用品を買うにもしまむらくらいしか無い。欲しいものを探しに行くと、見つかることが無いため、結局車でショッピングセンターなどに出て行かざるをえない。

【取組】

生活に必要なものは全てそろそろ施設をつくるにあたっては、主要顧客を子育て世帯に設定した上で、民間コンサルなども活用しながら、統一した都市計画を作成し、開発することが考えられる。

こうした都市計画を住民合意の下進めるために、タウンミーティングを開催する。

参考とする近隣の商業施設

○ヒタチエ (hitachie.jp)

施設構成：いばらきコープ（スーパー）、日立市役所の駅前出張所（行政窓口）、無印良品（冷凍食品コーナー含む、水戸駅には無い）、フードコート、ハレニコ（全天候型屋内遊戯施設）

○トナリエつくばスクエア・つくばエクスプレス つくば駅直結 (tonarie-tsukuba.jp)

施設構成：ロピア（スーパー）、フードコート、アカチャンホンポ（子ども用品店）、保育園、GAP（アパレル）



ヒタチエ



トナリエつくばスクエア

【課題】 家族で外で楽しめるようにするため、子連れで訪れたい場所を増やす		【取組】 芸術館において、芸術鑑賞中の託児サービスを実施する。1時間程度、有料のもの。「近所の人にちょっと見ておいてもらう」程度の注意で子どもを見てもらえば良い。
【課題】 子育てしやすい環境にするため、土日の子育て関係サービスを充実する		【取組】 土日開催の親子向けイベントや子育て相談の機会を増やす。
		【取組】 水戸駅周辺で3歳児歯科健診を実施する。実施に当たってはビルなどの空きスペースを活用する。
【課題】 子育てしやすい環境にするため、他者に頼れる雰囲気醸成する		【取組】 「親は子育てにつきっきりになるのではなく、もっとリフレッシュして良い」というメッセージを発信する。併せて、そのために実施している支援をもっと積極的にアピールする（子育て支援センターの存在やその活動など）。

○課題についての補足 【生活に必要なものは全てそろそろ施設をつくるため、住民の合意形成を図る】 ・水戸駅周辺は買い物が不便 水戸駅内のスーパーは足りないものを買う程度で、週末のまとめ買いをするには品数が足りない。子ども用品を買うにもしまむらくらいしか無い。欲しいものを探しに行くと、見つかることが無いので、結局車でショッピングセンターなどに出て行かざるを得ない。 ・水戸駅周辺は外食が不便 駅ビル内のレストランは次々に閉店していき、駅周辺の店も日曜休業のお店が多い。日曜日に家族で過ごせるような環境ではない。 【家族で外で楽しめるようにするため、子連れで訪れたい場所を増やす】 ・子連れで芸術鑑賞しにくい 水戸芸術館で「ケアリングマザーフード展」という、母親を題材にした展覧会を見に行った。下の子をベビーカーに乗せ、上の子を歩かせて行ったところ、「難しいとは思いますが、上の子の手を離さないように」と言われた。片手でベビーカーを押しながら、片手は子どもの手を離さないようにして、展示を見ることはかなり困難である。母親を題材にしているということで、参観者に「母親」は想定されており、「子連れ」も想定されていたと思う。授乳スペースとなるテントもあった。想定されていたのは「お母さんに抱かれてすやすや眠る赤ちゃん」連れ、「親に手を握られ、おとなしくついていく子ども」連れだったのだろうか。お絵描きスペースもあったが、親がぴったり付いて見ていることが前提となっていた。芸術館職員が好意で少しの間見てくれていたが、基本的には
--

迷惑だったのだろうと思う。

【子育てしやすい環境にするため、土日の子育て関係サービスを充実する】

- ・水戸駅周辺に住んでいても、車移動を前提とした健診会場の設定

3歳児歯科健診の会場が常澄保健センターだった。我が家からだと水戸駅から1時間に1本しかないバスに20分乗り、そこから大人の足で20分かけて歩かなければならない。3歳児を連れて時間通り家を出るだけでも大変なので、1時間に1本のバスに無事乗るだけでも一苦勞。さらに大人の足で20分なので、小さい子連れは倍かかる。ちなみにもう一つの候補は内原だった。水戸駅付近といういわゆる「中心地」に住んでいるはずなのに、水戸市の西端か東端に行かなければならない状態。

- ・土日に親子向けイベントが少ない、子育て相談しにくい

未就学児の子を持つ親を対象とした相談やイベントは平日開催が多く、平日働いている人には利用しにくい。

【子育てしやすい環境にするため、他者に頼れる雰囲気醸成する】

- ・子どもを常に親が見ていなければならないという圧力

子どもを常に親が見ていなければならない、という圧力がある。外に出れば、子どもを走らせないようにし、静かにさせるということが親に義務として課せられる。それができなければ親の不出来と糾弾される。その圧力は、子育てをしていない人からだけではなく、子育て経験者やまさに子育てをしている者からも発せられる。とにかく、子連れで外に出ると気疲れする。

かといって家に閉じこもっていても、子どものフラストレーションがたまる。親は逃げ場がない。

子育て支援センターの利用は、親が自分の子どもを見ていることが前提である。支援員は親の手助けではなく監視をしている。親が少しでも目を離していようものなら、「ちゃんと自分の子どもを見てください」ということで叱られる。まったくリフレッシュにならない。

水戸市にある「子育て支援」で本当に助けられたと思ったことがない。

平日開催の親子教室、平日開設の子育て相談、家の中以上に子どもをずっと見ていなければならないわんぱくみと、車でないと行けない千波公園（しかもイベントのときは駐車することもできない）。

新しくできた水戸市民会館も、結局できた子ども向けスペースはおとなしく絵本などを読むことを前提としている。水戸市は子どもがおもちゃや絵本を与えればおとなしく座っているものだと思っている。

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「**高齢の移住検討者が水戸ならではの魅力に触れられるまち**」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

歴史的資源を見学してもらうため、弘道館・水戸城跡を周知する。

【取組】

弘道館や水戸城の魅力などを知ってもらうための講演会を開催する。

ターゲットは北関東で移住を検討している高齢者とし、栃木県や群馬県の県庁所在地（宇都宮市、前橋市）で実施する。

実施に当たっては、チラシなども配布し、講演会終了後にもその魅力が伝わりやすいようにする。

○備考

【項目イ】

- ・イベント開催時における駅からの交通手段が限られている。
- ・日常生活のなかでは、自家用車が必須である。
- ・免許返納者にたいする支援が薄い。（バス・電車の本数が少ない）
- ・「イベントがあるから、水戸駅に行こう」等ではなく、イベントをとおして歴史のある水戸について学ぶ機会になるような行動に繋げていきたい。
- ・場所としての水戸駅や市内一円でのイベントの有無にかかわらず、移動の際、みとちゃり、タクシー、バス、自家用車、徒歩が主である。

【項目ウ】

- ・ヒトの流れを作り出しつつも、イベントをとおしてリスクリングの醸成（学び直し）に繋がられるようにする。（魅力発信や人と人の交流を主としたイベント開催ではなく、イベントをとおして市民一人ひとりが学び合うことが出来るものにする必要性）

【項目エ】

- ・バス・タクシー・電車などの公共交通機関以外の交通手段の確保。
- ・みとチャリの拡大
- ・電車・バスの本数の増加（事業者との折衝が必要となるが、担い手不足が懸念材料）

【項目オ】

- ・水戸市の道路事情を鑑みて難しいかと思われるが、路面電車など新たな資源の創出。

(仮) 日本で輝く水戸

【提言 11】「誰もが平等・公平に安心して、子供を育てられるまちづくり」

11.18 時点

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「**持続的にまちの活力が強くなっていくこと**」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

子育て世帯から選ばれるまちになるため、市民の希望出生率を叶える

子育て世帯から選ばれるまちになるため、子育て世帯の可処分所得を増やす

【取組】

●具体的取組

他自治体による実施取り組みを参考にしながら、水戸市にとって最適な具体的取り組み例を検討したい。

・東京都モデル

都内に住む 0 歳～18 歳までの子供を対象に、月額 5,000 円を支給。

（所得制限なし）

※これを参考にする形で、児童手当の非対象世帯に対し月額 5,000 円の支給なども検討可能。

・明石モデル（5 つの無料（すべて所得制限なし））

- （1） 高校生までの医療費無料（受診の病院は市内外問わず）
- （2） 第 2 子以降の保育料の完全無料化
- （3） 生後 3 か月から満 1 歳まで、おむつ等を毎月配達（配達時に相談実施）
- （4） 中学校の給食費無料
- （5） 公共施設の入場料金無料

・その他

市がすでに実施している結婚支援についても、所得制限撤廃を検討されたし

現状：夫婦の所得合計額が 500 万円未満

（その他要件あり）

※これらの施策の中で、実施する施策の詳細を決定したい。

●水戸市の世帯別納税表

金額単位：千円							
	課税標準額	所得税納税義務者（人）	総所得金額	1人当りの所得金額	課税標準額	1人当りの課税標準額	備考
I	10万円以下	60	210,722	3,512	11,911	199	
II	10万円超、100万円以下	1,319	2,233,285	1,693	740,849	562	
III	100万円超、200万円以下	936	2,747,836	2,936	1,541,089	1,646	
IV	200万円超、300万円以下	652	2,641,129	4,051	1,748,175	2,681	
V	300万円超、400万円以下	378	1,908,548	5,049	1,362,690	3,605	
VI	400万円超、550万円以下	282	1,754,702	6,222	1,320,222	4,682	市の結婚支援の非対象
VII	550万円超、700万円以下	133	1,051,164	7,903	818,031	6,151	〃
VIII	700万円超、1,000万円以下	128	1,301,320	10,167	1,054,006	8,234	児童手当の制限
IX	1,000万円超、2,000万円以下	129	2,093,173	16,226	1,796,434	13,926	児童手当の非対象
X	2,000万円超、5,000万円以下	70	2,312,915	33,042	2,164,789	30,926	〃
XI	5,000万円超、1億円以下	11	720,511	65,501	695,655	63,241	〃
XII	1億円超	9	1,590,005	176,667	1,569,629	174,403	〃
	総計	4,107	20,565,310		14,823,480		

出典：水戸市、課税標準額段階別令和4年度分所得割額等に関する調より、著者作成

第2表 各種世帯別にみた所得の状況

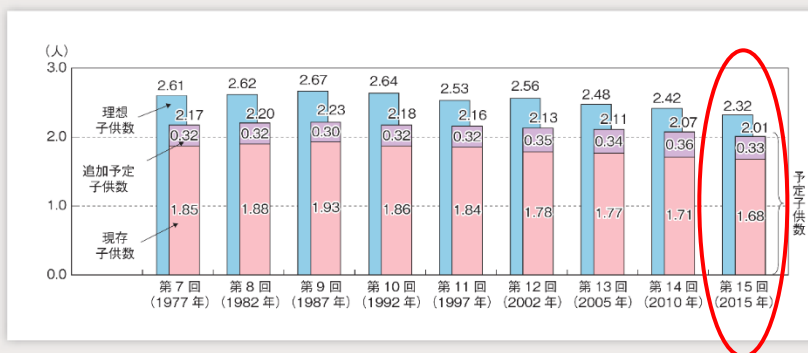
22 (令和4) 年調査

	全世帯	高齢者世帯	高齢者世帯以外の世帯	母子世帯	児童のいる世帯	65歳以上の者のいる世帯
1世帯当たり平均所得金額(万円)	545.7	318.3	665.0	328.2	785.0	454.8
1世帯当たり平均可処分所得金額(万円)	418.1	268.2	504.8	258.8	608.1	355.0
世帯人員1人当たり平均所得金額(万円)	235.0	206.1	243.6	123.7	194.8	207.9
有業人員1人当たり平均稼働所得金額(万円)	333.3	207.5	348.9	267.0	385.9	250.0

厚生労働省「2022 年 国民生活基礎調査」から

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>

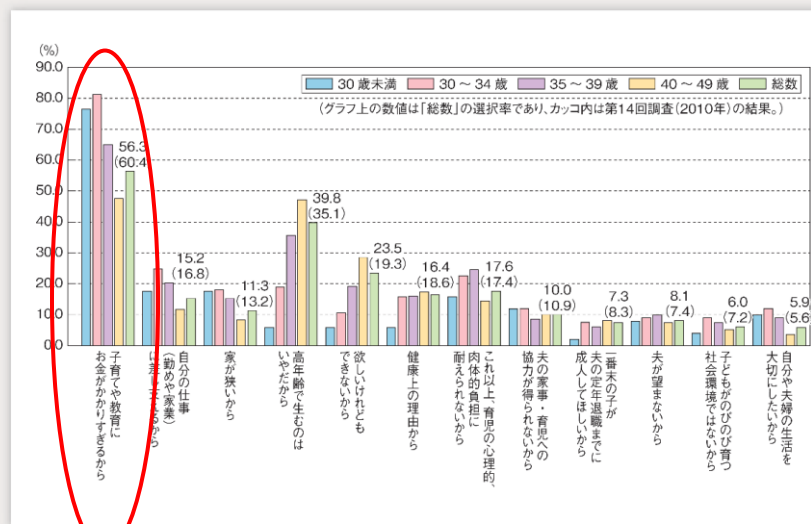
第1-1-21図 平均理想子供数と平均予定子供数の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2015年）

注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子供数は現存子供数と追加予定子供数の和として算出。総数には結婚持続期間不詳を含む。各調査の年は調査を実施した年である。

第1-1-22図 妻の年齢別にみた、理想の子供数を持たない理由



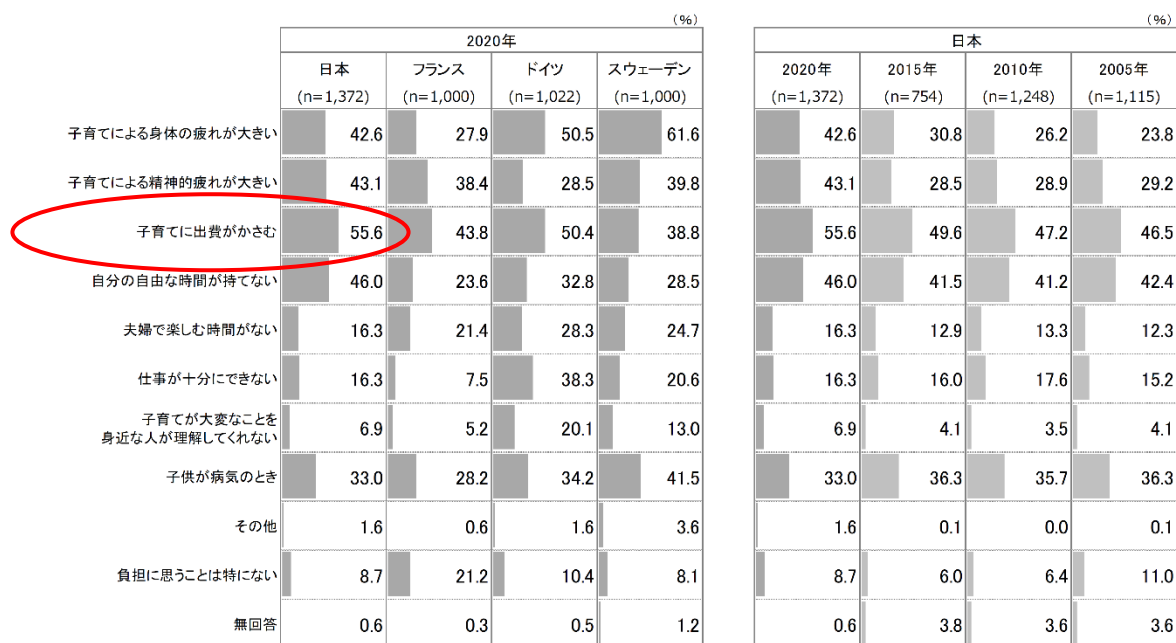
資料：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2015年）を基に作成。

注：対象は予定子供数が理想子供数を下回る初婚どうしの夫婦。予定子供数が理想子供数を下回る夫婦の割合は30.3%。

内閣府「令和4年版 少子化社会対策白書」から

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2022/r04pdfhonpen/r04honpen.html>

図IV－4 子育てをして負担に思うこと



注:「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/r02/kokusai/pdf/zentai/s2_4.pdf

内閣府「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査」

○備考

【項目ア】

- ・市が子育て世代に全面的に寄り添う姿勢を打ち出すことで、子育て世代の移住を促進する。特に、子育て世代の中でも、国の子育て支援が行き届かない世帯への手当を厚くすることで、内外に子育てしやすい水戸をPRするとともに、人口減少への歯止めと税収の増加を生み出す。
- ・本政策を実施することにより、人口増加と市税の増加が期待でき、投下予算以上の成果は充分期待できる。つまり、持続可能な政策とすることを狙う。

【項目イ】

- ・国や行政の子育て支援策の大半は、児童手当などに代表されるように所得制限が付されており、所得が高くなるとその支援を受けられないものとなっている。
 - ・所得が高くなっても、子供が多い場合などは子育ての負担は高く、収入の多寡でのみ、支援の有無を決定することは、不公平であり、また、子育て支援に繋がっていない。
- (児童手当の場合は、所得の計算が世帯所得ではなく、主たる所得者であり、この制度がより不公平性を助長している)
- ・本施策は、国や他の自治体（あるいは水戸市）が行っている支援施策の所得制限を実質的に撤廃することを狙ったもの。
 - ・具体的な、支援の内容については、上記、「オ」に記載する。

【項目ウ】

- ・子育て世代を呼び込むことで、最低でも夫婦 2 人の社会増加となる。
また、子供が生まれることでの自然増加も充分期待できる。
- ・子供が増加することで、自治体や街としての活力が生まれる。
- ・本施策は、所得制限により施策の裨益を得られない世帯向けの施策であり、いわゆる高所得世帯向けの施策となる。高所得世帯の移住が進むことで、市の税収の上昇も期待でき、さらなる子育て支援策の拡充を行うことも期待される。つまり、本施策は、拡大再生産可能なものであり、施策の実施により、導入 1 年目は一時的に市の負担は増加するものの、2 年目以降の市の財政はプラスとなることが予想される。

※本施策実施により、特に欄外表の「Ⅷ」～「Ⅸ」層の流入増加を狙う

これらの層は、人口も「Ⅹ」以降と比較し多く、また税負担感も強いいため、本施策の効果が大きいと考える。

- ・子育て世代を支援する水戸市

（提言によって、対象者が得られる利益）

市民：従来は行き届かなかった支援の享受

水戸市：子育て世代の移住と、出生による人口増加、税収の増加。

【項目エから】

課題

- ・実施する取組により異なるが、水戸市の財政負担は増加する。ただし、本施策実施により、人口の流入、特に高所得世帯の市への流入増加が期待でき、移住翌年以降の税収の増加や出生による更なる人口の増加が期待できる。

【理想とするまちの姿（要旨）】

- ・（まちの環境の要旨を記入）
- ・（市民の活動の要旨を記入）
- ・（まちの魅力とテーマとのつながりの要旨を記入）

このまちをつくるために、この提言で実現したいことは「スマートフォン一つで水戸市の魅力や情報が目につきやすく、生活がしやすいまち」です。その実現に向け、以下のとおり課題及びその解決のための取組を提言します。

【課題】

SNS 等で水戸市の情報が目にとまるようにするため、面白そうな動画などを配信する

【取組】

水戸市が SNS 等で情報を発信する際にはエンタメを重視し、動画を多くする。

なお、配信にあたっては、市職員の中から、インフルエンサーのように動画などで情報を配信することに特化した職員を配置する。または、情報発信に特化した職員採用試験を実施する。

（例）

農林水産省「BUZZMAFF ばずまふ」

<https://www.youtube.com/c/buzzmaff>

京都市

<https://www2.city.kyoto.lg.jp/kotsu/vision/index.html>

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/>

○備考

- ・宣伝力
- ・拡散力
- ・影響力
- ・伝達力
- ・告知力
- ・市民力
- （性）

【項目イ】

・いい街なのに
・ボランティアや素敵な活動が多いのに
まちの魅力が市民（国民）に十分に伝わっていない

【項目ウ】

たくさんのイベント・飲食店がある，観光スポット
(知らない情報が多い) ↑ 水戸市は良い所

【項目エ】

発信力の弱さ

- ・知らない
- ・教えてくれない



市民の声

- ・ Youtube
- ・ インスタグラム
- ・ TikTok
- ・ X

紙面での告知が多い

(高齢者のみしかみてない)

(今どき→SNS)

【項目オ】

- ・ SNSの発信力を上げる → 紙での宣伝は引き続き
(インフルエンサー？

職員？外注？

☆物語（ストーリーが大切）

↑ 応援する

資料

市政モニター活動内容

令和5年5月12日（金） 市政モニター委嘱状交付式及び第1回市政モニター会議

【委嘱状交付式】

- ・ 委嘱状交付
- ・ 市長あいさつ

【会議内容】

- ・ 水戸市からの説明
 - 「市政モニター及び今後の流れ等について」 市民相談室
 - 「水戸市の概要について」 政策企画課
- ・ 意見交換等
 - 「市政モニターによる自己紹介等」

令和5年6月8日（木） 第2回市政モニター会議

【会議内容】

- ・ 水戸市からの説明
 - 「市政モニター会議について」 市民相談室
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」 政策企画課
 - 「市政モニター提言書作成マニュアルについて」 市民相談室

令和5年7月19日（水） 第3回市政モニター会議

【会議内容】

- ・ 水戸市からの説明
 - 「市政モニター会議について」 市民相談室
- ・ 意見交換等
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」

令和5年9月1日（金） 第4回市政モニター会議

【会議内容】

- ・ 意見交換等
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」

令和5年10月17日（火） 第5回市政モニター会議

【会議内容】

- ・ 意見交換
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」

令和5年12月4日（月） 第6回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「提言の発表について」
 - 「提言書（案）について」

令和6年1月 日（ ） 第7回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「提言書について」
 - 「提言の発表について」

令和6年2月14日（水） 第8回市政モニター会議

【会議内容】

- ・提言書の提出

市政モニター会議の様子

